

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		山野 大星		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	芸術専門課程	スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース		平成26(2014)年度	-	平成27(2015)年度																														
学科の目的	スポーツイベントの企画・運営やスポーツグッズの販売、スポーツ施設やショップの経営・マネジメント、スポーツ観光、出版・メディアなどといった、スポーツビジネスのさまざまなシーンで活躍するスタッフやプロをめざします。在学中からスポーツショップでの販売やスポーツイベントの企画を経験することで、スポーツの現場の臨場感と興奮を実感しながら実践的に学習。また、多彩なビジネスシーンで役に立つ資格の取得対策や、国際化に対応するための英語の授業も用意しています。ICTを軸にビジネススキルや発想力といった専門力だけでなく、協調性や自立性といった人間力も身につけ、業界から必要とされる人材を育成することを目的としています。 さらに三年制では、インターンシップや資格取得などに積極的に挑戦。柔軟な発想力とユーザー体験思考を最大限に生かしたスポーツ経営力を身につけます。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	スポーツイベント検定、販売士検定、国内旅行業務取扱管理者、日商簿記検定3級、MOS検定、ビジネス能力検定ジョブパス3級 中退率: 10.3%																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,400 単位時間	1,950 単位時間	180 単位時間	1,290 単位時間	0 単位時間	750 単位時間																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																															
120 人の内数	25 人	0 人		0 %	10 %																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>20</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>20</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>20</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>14</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>70</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ゼビオ㈱、ABCマート、㈱シズオクト、ミズノスポーツサービス、STEPJAPAN、Birth47、Fosbury、LACOSTE、横浜市スポーツ協会</p>								■卒業者数(C)	20	人	■就職希望者数(D)	20	人	■就職者数(E)	20	人	■地元就職者数(F)	14	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	70	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	20	人																																		
■就職希望者数(D)	20	人																																		
■就職者数(E)	20	人																																		
■地元就職者数(F)	14	人																																		
■就職率(E/D)	100	%																																		
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	70	%																																		
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																		
■進学者数	0	人																																		
■その他																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																			
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/sports/health/business/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	120 単位時間	うち必修授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	120 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	120 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	120 単位時間																																			
うち必修授業時数	120 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	120 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																			
総授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																			
うち必修授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td>5 人</td> </tr> </table>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人	計	6 人	5 人															
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1 人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2 人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2 人																																			
計	6 人																																			
5 人																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツビジネスの関連分野について企業や行政へのヒヤリングを実施しながら、実務に関する知識や必要とされる技術等を調査して、授業内容や科目構成を年度ごとに見直す。協力企業・団体については、学内外の実習設備や施設等を活用して、講師の派遣と年間を通じた定期的指導や評価が出来るかどうかを条件としてスポーツビジネス関連業界より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
宮下 卓也	一般社団法人 スポーツ振興地域開発機構 マネージャー	令和6年4月1日～令和7 年3月31日(1年)	①
伊藤 達也	株式会社サス・スポーツプロダクト代表取締役	令和6年4月1日～令和7 年3月31日(1年)	③
宇都宮 仁	ゼット株式会社取締役執行役員	令和6年4月1日～令和7 年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7 年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和6年4月1日～令和7 年3月31日(1年)	—
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和6年4月1日～令和7 年3月31日(1年)	—
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和6年4月1日～令和7 年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月・8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年09月06日 10:00～12:00

第2回 令和6年03月05日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

スポーツビジネス分野で活躍できる人材教育として、PCスキル・動画作成・コミュニケーション能力を高める必要がある。イベント実習を通じてそれらを「感じ・学び」、日々の授業に落とし込む。学科の価値・強みを時代の流れやニーズとともにブラッシュアップし、カリキュラム構成・指導に反映する。学生が一つでも強く興味を持てる分野を体験を軸にカリキュラムを作り、生き活きとした明るく積極性のある人材を教育する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。			
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。1年次においては、「イベント企画・演習1」にて、動画編集やデザイン能力を身に付け、SDGsスポーツのプログラミングやフットサル・セパタクローの大会開催を行う。大会に関しては協会関係者が関わり、オリエンテーション・中間講評・プレゼンテーションに立ち会ってもらい、学生のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力についても指導する。企画終了後は、学生の学習評価を踏まえ、改善・工夫について連携企業と協議する。2年次においては、スポーツビジネスの実践的な課題を実施する上で必要な基礎的な販売促進やマーケティング、地域連携、施設活用等に関する応用知識を学び、学生自身が自主運営できるような課題設定を行っている。			
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
イベント企画・演習1 ※2023カリキュラム→2024カリキュラム「スポーツプロジェクト1」に対応	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	イベント企画・提案を行うための基礎的な知識も身につけながら、地域スポーツやアウトドア実習等と関連させたレクリエーションアクティビティの企画・提案を行います。	株式会社ファイルフォックス八王子
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。			
(2) 研修等の実績			
① 専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	カリキュラム・指導とスポーツの職業への発展①	連携企業等:	株式会社インターナショナルスポーツマーケティング マネジャー島田和茂
期間:	令和5年9月7日 10:00-12:00	対象:	スポーツ教員
内容:	専門力を活かす指導とカリキュラム作成のヒントを得る		
研修名:	カリキュラム・指導とスポーツの職業への発展②	連携企業等:	株式会社インターナショナルスポーツマーケティング マネジャー島田和茂
期間:	令和6年3月21日 10:00-11:30	対象:	スポーツ教員
内容:	専門力を活かす指導とカリキュラム作成のヒントを得る		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	学生指導・保護者サポートのための教育力向上①	連携企業等:	株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里
期間:	令和5年9月4日 15:30-17:30	対象:	スポーツ教員
内容:	コーチングを軸とした学生指導と保護者サポート力向上		
研修名:	学生指導・保護者サポートのための教育力向上②	連携企業等:	株式会社ヒトスパイス 代表取締役社長 野本知里
期間:	令和6年3月5日 15:30-17:00	対象:	スポーツ教員
内容:	コーチングを軸とした学生指導と保護者サポート力向上		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	スポーツ・健康サポート×IOT・ICT	連携企業等:	(公財)日本サッカー協会 大塚慶輔
期間:	9月を予定	対象:	スポーツ教員
内容	遠隔での指導・商品紹介と使い方		
研修名:	スポーツ・健康サポート×IOT・ICT	連携企業等:	(公財)日本サッカー協会 大塚慶輔
期間:	3月を予定	対象:	スポーツ教員
内容	遠隔での指導と実例		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	救急体制と対応について	連携企業等:	国土館大学防災・救急救 助総合研究所 曾根悦子
期間:	9月を予定	対象:	スポーツ教員
内容	①安全な学校生活の環境整備や体制 ②救急事例と対応		
研修名:	救急体制と対応について	連携企業等:	国土館大学防災・救急救 助総合研究所 曾根悦子
期間:	3月を予定	対象:	スポーツ教員
内容	①救急事例と対応 ②救急対応と法的問題 ③職業教育を実施する教員として備えるべき救急対応に関しての能力		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・学生に選ばれるための施策(新規獲得)と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
- ・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してはどうでしょうか。
- ・報告内容にeラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験奨励を実施すること、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事をもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
- ・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
- ・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感激しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
- ・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生と育ててきている時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思えます。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思えます。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
- ・コロナ禍がスッキリ明けたと言えない状況ですが、コロナ禍の真っ只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てこなければ良いかと思えます。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
- ・全体的に特記事項については、過去3カ年ぐらいの実績が書かれていれば良いかと思えます。それ以上前のことが書かれていると進化が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思えます。
- ・教職員研修は、実施されると思いますがこれからもどうか業務として認めていただけることも合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形ですまないようお願いいたします。
- ・保護者は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
- ・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学ぶ側にとってとても有難いことと思われまます。また会議の折にもお話いただきましたが対面授業とオンライン授業のハイブリッドにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎということは無いかと思いますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨今、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところと存じます。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生/企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局 局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務 局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和6年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和5年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツ健康学科 三年制 スポーツビジネスコース)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	スポーツ実技6	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	2・後	30	1			○	○		○		
		○	インターンシップ3	ボランティア活動等に参加し、就職活動に有益となる業界知識の取得や業務内容の体験を行います。	3・通	30	1			○		○	○		
	○		成果発表	卒業展示会に向けた成果発表のための資料展示および発表準備を実施します。	3・後	60	4	○			○		○		
		○	内定先研修	スポーツ関連企業での就業体験を行います。	3・通	60	2			○		○	○		
		○	スポーツ自由研究E	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	3・通	30	1			○	○	○	○		
		○	スポーツ自由研究F	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	3・通	30	1			○	○	○	○		
		○	キャンプインストラクター実習C	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	3・前	30	1			○		○		○	
		○	マリン実習C	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	3・前	30	1			○		○		○	
		○	スキー実習C	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	3・後	30	1			○		○		○	
		○	スノーボード実習C	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	3・後	30	1			○		○		○	
		○	キャリアアップセミナーI	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	3・通	15	0			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーJ	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	3・通	30	1			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーK	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	3・通	45	1			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーL	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	3・通	60	2			○	○			○	
		○	短期海外研修C	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	3・前	60	2			○		○	○	○	
		○	MFCスタッフ実習3	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	3・通	120	4			○	○		○		
		○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1			○		○		○	
		○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	2・後	30	1			○		○		○	

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1			○		○			
		○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	15	0			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーF	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	30	1			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーG	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	45	1			○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーH	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・通	60	2			○	○			○	
		○	短期海外研修B	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	2・前	60	2			○		○	○		
		○	MFCスタッフ実習2	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	2・通	120	4			○	○		○		
	○		ビジネススキル5	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	3・前	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ時事1	スポーツビジネスに関する最近の動向や傾向に着目し、それらがもたらす社会的な影響等について理解を深めます	3・前	30	2	○			○			○	
	○		PC活用5	コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーションが及ぼす社会的、心理的影響について検討し、新たなニーズを開拓していくためのビジネスソリューションを発展させていきます。	3・前	30	2		○		○			○	
	○		スポーツプロジェクト5	これまでのスポーツに関する既存概念に捕らわれない体験型プロジェクトを立ち上げ、アクティビティ参加の機会提供とイベント運営を計画します。	3・前	150	10		○		○		○	○	
	○		スポーツツーリズム研究1	スポーツと観光のそれぞれの事業効果を融合させながら、来訪者の獲得や経済活性化に成功している地域事例を学びながら、将来的なスポーツ観光事業の可能性について考察を進めます。	3・前	60	4	○			○	○	○		
		○	スポーツ実技5	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	2・後	30	1			○	○		○		
	○		ビジネススキル6	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	3・後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ時事2	スポーツビジネスに関する最近の動向や傾向に着目し、それらがもたらす社会的な影響等について理解を深めます	3・後	30	2	○			○			○	
	○		PC活用6	コンピュータ・メディアを利用したコミュニケーションが及ぼす社会的、心理的影響について検討し、新たなニーズを開拓していくためのビジネスソリューションを発展させていきます。	3・後	30	2		○		○			○	
	○		スポーツプロジェクト6	これまでのスポーツに関する既存概念に捕らわれない体験型プロジェクトを立ち上げ、アクティビティ参加の機会提供とイベント運営を計画します。	3・後	150	10		○		○	○	○	○	

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
36	○			スポーツツーリズム研究2	スポーツと観光のそれぞれの事業効果を融合させながら、来訪者の獲得や経済活性化に成功している地域事例を学びながら、将来的なスポーツ観光事業の可能性について考察を進めます。	3・後	60	4	○			○	○	○	
37	○			ビジネススキル1	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○			○
38	○			PC活用1	ビジネス実務上、必須となるWordの基本的な使用方法とその応用について学びます。	1・前	30	2	○			○			○
39	○			ENGLISH 1	英語の口語表現と会話方法を中心とした英語運用能力の習得を行います。	1・前	30	2	○			○			○
40	○			ビジネスプレゼンテーション1	自分を取り巻く諸事情を理解するため必要な言語的、数学的思考法についての復習を行い、社会人として求められるヒューマンスキルの習得を目指します。	1・前	30	2	○			○			
41	○			企業・業界研究	変革を続けるスポーツ業界の中で、企業が求める人材像の変化について学びます。	1・前	30	2	○			○			
42			○	メディア1	スポーツとメディアの関係についてディスカッションを中心に行い、基礎的なメディア・リテラシーを習得します。	1・前	30	2	○			○			○
43	○			スポーツプロジェクト1	イベント企画・提案を行うための基礎的な知識も身につけながら、地域スポーツやアウトドア実習等と関連させたレクリエーションアクティビティの企画・提案を行います。	1・前	120	8	○			○	○	○	○
44	○			販売士検定対策講座1	販売士検定資格の取得に向けた試験対策授業を行います。	1・後	30	2	○			○			○
45	○			スポーツイベント検定対策講座	日本イベント産業振興協会が認定するスポーツイベント検定の資格取得を目標とし、より適切で効果的なイベントを実施するために必要な基礎知識について体系的に学びます。	1・前	30	2	○			○			○
46	○			スポーツ実技1	スポーツプロジェクトで導入する様々なスポーツ種目を体験します。それぞれの種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで体験をします。	1・前	30	1			○	○			○
47			○	インターンシップ1	ボランティア活動等に参加し、就職活動に有益となる業界知識の取得や業務内容の体験を行います。	1・前	30	1				○		○	
48			○	レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方と、さまざまな場面での運動方法を学びます。	1・前	30	1			○	○			○
49			○	スイミングA	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1			○	○			○
50			○	フィンワーク実習	プールにて3点セット(マスク、フィン、スノーケル)を使用し、フィンワーク(泳ぎ方、素潜り)技術を養います。	1・前	30	1			○	○			○
51	○			ビジネススキル2	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	1・後	30	2	○			○			○
52	○			PC活用2	ビジネス実務上、必須となるExcelの基本的な使用方法とその応用について学びます。	1・後	30	2	○			○			○
53	○			ENGLISH 2	英語の口語表現と会話方法を中心とした英語運用能力の習得を行います。	1・後	30	2	○			○			○

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
54	○			ビジネスプレゼンテーション2	自分を取り巻く諸事情を理解するため必要な言語的、数学的思考法についての復習を行い、社会人として求められるヒューマンスキルの習得を目指します。	1・後	30	2	○			○			
55	○			スポーツ用品論	スポーツ産業を構成する諸産業に分解し、特にスポーツ用品の小売りに焦点をあて、産業構造、商品特性、流通のしくみについて解説します。	1・後	30	2	○			○			
56			○	データ分析	簡単な確率・統計手法を用いて収集データの見方や分析の基本を学ぶとともに、その背後にある社会や経済の諸現象などを把握・検証するための術について学びます。	1・後	30	2	○			○			○
57			○	メディア2	メディア1で学んだメディアリテラシーを基盤に、テレビ映像やスポーツ報道の内容分析を行いながら、効果的な伝達方法について学びます。	1・後	30	2	○			○			○
58	○			スポーツプロジェクト2	イベント企画・提案を行うための基礎的な知識も身につけながら、地域スポーツやアウトドア実習等と関連させたレクリエーションアクティビティの企画・提案を行います。	1・後	120	8		○		○	○	○	
59	○			MOS対策	マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)の取得に向けた試験対策授業を行います。	1・後	30	2	○			○			○
60	○			スポーツ実技2	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	1・後	30	1			○	○		○	
61			○	スポーツ自由研究A	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・通	30	1			○	○	○	○	
62			○	スポーツ自由研究B	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・通	30	1			○	○	○	○	
63			○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1			○		○		○
64			○	マリンスポーツ実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1			○		○		○
65			○	初級ダイビング実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○		○		○
66			○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1			○		○		○
67			○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1			○		○		○
68			○	中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・後	30	1			○		○		○
69			○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	15	0			○	○			○

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○ キャリアアップセミナーB	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	30	1			○	○			○	
			○ キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	45	1			○	○			○	
			○ キャリアアップセミナーD	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	60	2			○	○			○	
			○ 短期海外研修A	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	1・前	60	2			○		○	○	○	
			○ MFCスタッフ実習1	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	1・通	120	4			○	○			○	
	○		ビジネススキル3	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	2・前	30	2	○			○			○	
	○		PC活用3	ビジネス実務上、必須となるPowerPointの基本的な使用方法とその応用について学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
	○		スポーツプロジェクト3	キャンパス周辺に存在する地域資源に関する情報を収集し、地の利を活用した健康増進に繋がるアクティビティプログラムの設計を行います。	2・前	150	10	○			○	○	○		
	○		販売・マーケティング理論1	販売に関する商品知識、接客技術を身に付け、実際のモノ作りやブランド作成を行います。	2・前	30	2	○			○	○	○		
	○		メディア活用企画・演習	インタビュー調査方法を例として取り上げ、読者や視聴者へのオーディエンス分析を行い、メディアコンテンツの生産方法とその報道過程を体験します。	2・前	60	4	○			○			○	
	○		スポーツトレンド研究	時代とともに生み出される新しいスポーツ種目(例:SAP、eバイク、ライフキネティック、eスポーツなど)を取り上げながら、それらの種目に含まれるアクティビティ要素や運動効果を研究・体験しながら、これからのスポーツアクティビティの動向や方向性について学習します。	2・前	30	2	○			○			○	
			○ 販売士検定対策講座2	販売士検定資格の取得に向けた試験対策授業を行います。	2・前	30	2	○			○			○	
			○ 簿記検定対策講座1	簿記資格受験に求められる基礎知識を習得します。	2・前	30	2	○			○			○	
	○		国内旅行業務取扱管理者講座	国内旅行業務取扱管理者資格の取得に向けた集中講座を行います。	2・前	30	2	○			○			○	
	○		スポーツ実技3	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	2・前	30	1			○	○			○	○
			○ インターンシップ2	ボランティア活動等に参加し、就職活動に有益となる業界知識の取得や業務内容の体験を行います。	2・通	30	1			○		○	○		
			○ スイミングB	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	2・前	30	1			○	○			○	
	○		ビジネススキル4	社会人として求められるヒューマンスキルを身につけます。	2・後	30	2	○			○			○	

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 スポーツビジネスコース)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
88	○		PC活用4	PC活用1～3で習得した知識と技術を応用して、ビジネスプレゼンテーションに向けた資料作成と発表を行い、効果的なプレゼンテーション方法を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
89		○	スポーツ社会学	健康増進、経済活性化、国際競技力の向上といった日本のスポーツ振興に関わる政策の方向性や人権や公正といったスポーツに関わる法律や指針について学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
90	○		販売・マーケティング理論2	販売に関する商品知識、接客技術を身に付け、実際のモノ作りやブランド作成を行います。	2・後	30	2	○			○			○	
91	○		映像・画像技術演習	商品のプロモーションや顧客とのコミュニケーションに有効な画像技術(例:ホームページ作成、パワーポイント作成、SNS、動画作成など)の活用方法について学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
92	○		スポーツプロジェクト4	キャンパス周辺に存在する地域資源に関する情報を収集し、地の利を活用した健康増進に繋がるアクティビティプログラムの設計を行います。	2・後	150	10	○			○	○	○		
93		○	簿記検定対策講座2	簿記検定3級資格受験に向けた専門的知識を習得します。	2・後	30	2	○			○			○	
94	○		スポーツ実技4	各球技種目の特性やルールを理解しながら、基礎技術からゲームまで指導を受けながら各種目を体験します。	2・後	30	1				○	○		○	
95		○	スポーツ自由研究C	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・通	30	1				○	○	○	○	
96		○	スポーツ自由研究D	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・通	30	1				○	○	○	○	
97		○	キャンピングインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1				○			○	
合計				97 科目		4170時間		単位(単位時間) 207単位							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要 卒業時に必修科目1980時間(128単位)および選択科目420時間(15単位)以上取得 件: し、合計2400時間(143単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2 期
履修方 1年次は必修690時間、選択科目110時間以上履修すること 法: 2年次は必修690時間、選択科目110時間以上履修すること 3年次は必修600時間、選択科目200時間以上履修すること	1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。